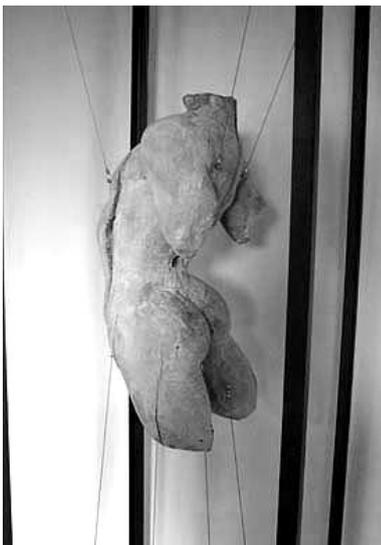


『Sculpture ～立体造形～』 出版記念展 大野公士・Shu Konishi 展 ～かたどる被膜～



大野 公士

197年、東京生まれ。1996年、多摩美術大学大学院彫刻専攻修了。
1995年に、二科展入選をはじめ、国際芸術展や、日韓国際
交流展 波動 1999～ 2000 2nd World Art Delft Poetry II - (オランダ、
デルフト) などの多くの国際グループ展に参加。
東京と横浜をベースに、多様なギャラリーで、個展が定期的開催される。
舞台彫刻制作にも手がけ、大野一雄フェスティバルや、
クリストファー遙盟在日 35周年記念公演にも参加。

樟や櫟の原木からトルソや首を彫り出し、細いワイヤーを筋肉繊維に
見立て、いわば人体の薄い表皮だけを彫りだす。
大野公士は舞台や文学との連携を活かす彫刻家として、
もっとも斬新なアプローチをする。

「大野公士の木彫トルソは、その形体があまりに個性的である
だけでなく、思索の密度の濃さによって見る者に衝撃を与える。」
美術評論家 大島幸治

Shu Konishi

京都府生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科終了。ヘアメイク
ピアノコ入社、トニー・タナカのもとで特殊メイクを学ぶ。
トニーズ・ラボ SFX (特殊メイク部門) のチーフとして、メイク・
造形を指揮をとる。
1997年独立。同年シュウデザイン設立。
2000年、名称をアトリエシュウに変更。

現在、従来の仕事の他に、特殊メイクとファインアートの接点を
模索。人の体を直接型取りしイメージに沿っているような形に具現化
している。

「かたどる被膜」では、『花器』を展示する予定。
「作品製作は特別なことではなく日常的作業の延長線上の事と
考えています。」
Shu Konishi

